見つめ直す登米耕土

講演会で地元の歴史学ぶ

「米山・中津山・吉田公民館合同歴史講演会」は11月14日、中津山公民館で開かれ、地域住民や関係機関など計170人が参加しました。

講演会は、宮城大学名誉教授の加藤徹さんが、水害に苦しめられていた登米耕土（平野部）を先人たちがどのようにして実りある土地に開墾したのかを紹介。江戸時代までさかのぼり、河川改修や水利、新田開発などの取り組みを詳しく説明しました。参加した井崎京一さん（65）＝米山町猪込＝は「地域の歴史や、生い立ちを再確認できて良かったです。先人たちへの感謝を忘れず、これからも農業を頑張りたい」と話しました。

講師の加藤さんは「自然豊かで、農業が盛んな登米耕土をこれからも守り続けてほしい」と参加者に思いを伝えました。

映像で防火呼び掛け

秋季登米市火災予防運動

「秋季火災予防運動プロジェクションマッピング」が11月９、12の両日、消防本部で行われました。

当事業は、秋季火災予防運動広報活動の一環として実施され、市内の小中学生が制作した防火ポスターや標語を投影し、火災予防を呼び掛けました。ポスターは炎が燃え上がる様子などの加工が施され、色とりどりの映像が切り替わるたび、観覧に訪れた人たちから拍手が上がりました。映像は登米総合産業高校写真部と卒業生の皆さんが制作。髙橋瑞貴さん（19）＝迫町鉄砲丁＝は「多くの人の目に触れ防火意識を高めてもらえたらと考え、みんなで作り上げました」と話しました。

消防本部の外壁にくっきりと浮かび上がった防火ポスターの映像。投影の様子は、動画配信しています。

子どもの成長を願い

ファーストウッドを贈呈

「ファーストウッド贈呈式」は11月22日、迫保健センターで行われ、６組の親子へ木製品が贈呈されました。

本事業は、市内産森林認証材を活用して製作した「はじめての木製品」を市内の新生児に贈り、未来を担う大切な子どもたちが木に触れ慣れ親しみ、健やかに成長することを願うものです。小畑春香さん（34）＝迫町横丁＝は「家族みんなでこれからの子どもの成長を記録できる、思い出に残るものだと思います。とてもうれしくて感動しました」と話しました。ファーストウッドは、今後行われる乳児健診や離乳食教室などの機会に、新生児へ贈呈されます。

贈られた木製品は、全国公募の中から決定したデザイン。子どもの成長を記録できる「とめファーストウッドフレーム」です。

地域はみんなで守る

新田地区で合同防災訓練

学校と地域の協働活動「新田地区幼小中合同防災訓練」は11月11日、新田小学校などで開かれ、幼稚園児、小中学生および地域住民計270人が参加しました。

合同防災訓練は３年ぶりの開催。参加者は、自衛隊や消防などの関係機関から指導を受け、火災避難訓練をはじめ、災害時に役立つロープワークや避難所設営、防災クイズなどさまざまなメニューを体験しました。髙橋蒼弥さん（新田中３年）は「自衛隊の皆さんに土のう作りを教わり、大変さを実感しました。災害時には、地域の人たちとのコミュニケーションがとても大切だと思いました」と話しました。

中学生は地域住民の皆さんと協力しながら、避難所用簡易テントやエアーベッドを手際よく組み立てていました。

感謝伝える販売体験

宝江小でマーケット開催

「宝江マーケット」が11月25日、宝江小学校（熊谷みち校長、児童136人）で開かれました。

マーケットでは、児童たちが手作りしたクリスマスリースやだるまなどの小物や学校田で栽培した米などを、地域住民や保護者の皆さんに、模擬貨幣を用いて販売しました。会場は大盛況。訪れた人たちは、児童たちから商品の説明を熱心に聞きながら買い物を楽しんでいました。後藤耀太さん（５年）は「地域の皆さんと一緒に育てた米を販売しました。おつりを渡す時、お客さんを待たせないように気を使いましたが、たくさんの人に喜んでもらえてうれしかったです」と話しました。

児童たちは、手作りした商品を、日頃からお世話になっている家族や地域の皆さんへの感謝を込めて手渡しました。

未来は僕らの手の中

中学生議員が市長と議論

「子供議会2022」（とめ青年会議所主催、志賀昭洋理事長）は11月12日、市役所議場で開かれ、市内９校から選ばれた９人の中学生が参加しました。

子供議会は、生徒たちの中から議長が選出され議会を進行しました。中学生の視点による行政運営に対する純粋な質問に対して、市長や各担当係長などが回答。本物の議会さながらの議論を交わしました。議長を務めた齋藤くるみさん（佐沼中３年）は「さまざまな視点から物事を見る力や新たな気づきを得ることの大切さを学びました。今回学んだことはこれからの生活などに生かしたいです」と、意気込みを話しました。

生徒たちは、子供議会を通じて政治への関心を深め、市の将来について自ら考えることにより、社会参画への意識を養いました。